

梅雨明け！岩山訓練（瑞牆山・金峰山）（個人山行）

（報告）TM

◎期日：2025年7月19日（土）～20日（日）

◎メンバー：TM（L）、FJ（SL）、KM

7月半ば、私は悩んでいた。翌月初めに北アルプスの剣岳にテント泊で行く計画を立てたはいいけれど、岩の多い山はしばらく行ってないし、テント泊も慣れていない。せっかくこんなすごい山に行くのに、「こんな準備をしておけばよかった、あれも足りなかった」となるのは目に見えている。そこで7月海の日三連休の1週間前、「岩の多い山に行く、テント泊のチェックをする」を目的に、剣岳にご一緒いただくKMさんとFJさんを誘ってみた。ダメもとだったが、思いがけずお二人ともOKの返事が来た。やった、ついてる！



瑞牆山を見上げる

瑞牆山に加え、金峰山にも登る幕営1泊の計画とし、土曜日早朝、今回もFJさんの愛車に出動いただき出発した。下りの中央道の渋滞が激しく、一般道に出たりしながら、予定より1時間余り遅れて、瑞牆山荘前の県営無料駐車場に到着。準備してすぐに出発。途中、瑞牆山を間近に見上げるポイントがあって、おー、こんな山にこれから登るのか！と信じられない思いがする。

1時間弱で富士見平小屋到着。すぐに受け付けてテント設営。KMさんとFJさんはツェルト、私は今年ソロテントを買ったのでウキウキ気分ですんで来た。使うのは2回目。近くの水場で水を汲んで急いで昼食をとり、13時少し前に出発した。今回は山頂までのピストンだ。

出発するとすぐに、沢と大きな桃岩が待っていた。岩には枯れ枝が何本も立てかけてある。歩を進めるうちに似たような岩と棒を何度も見た。はは～ん、つかえ棒なんだな。もちろん岩は簡単に割れないし、割れたところで枯れ枝なんかで支えきれない。それでもなんとなく危なっかしいし、もし何かあれば、少しでもなんとかしたいという、登山者のかわいく嬉しい気持ちの表れなのであった。私も上の方で1本、謹んで添えてきた。



しっかり支えられた桃岩

森の中の大岩を、時に鎖を当てにしながら登り、ピンク色のシャクナゲが咲く場所を通り過ぎて、最後の岩をよじ登ると山頂に出た。1時間半余りであった。梅雨明け直後の太陽と澄んだ空気で、辺りはキラキラと輝いている。真っ黒な夏のハヶ岳、明日登る金峰山がよく見えた。その手前に広がる緑の森も、太陽の光を浴びて生き生きしている。

晴れの三連休、山頂はたくさんの登山者で溢れていた。どの方向の景色が一番いいか、「やっぱりハケ岳の方だな」などと話していたら、「どれがハケ岳ですか！」と元気な声が話しかけてきた。「え？」と振り向いたら、駐車場からほぼ同じ歩みをしてきた浜松北高校の男子生徒だった。FJさんがハケ岳の方を振り向いて、腕を伸ばして指し示すと、目を細めてじっと見つめている。そっか、浜松からハケ岳は見えないもんな。聞けばワングル部の1年生で、まだ体つきも子どもと大人の間くらいだ。先輩たちと一緒に男女全員、山頂まであえて15kgくらいの荷物を担いでトレーニング中。これからどんどん成長するキミたちも、おばさんの眼にはキラキラと眩しいぞ。夏の一大一番は北アルプスの白馬だそうだ。楽しい思い出を作ってほしい。



瑞牆山山頂からハケ岳方面。青空が気持ちいい！

いつまでも見ていられる風景だったが、山頂は人が入れ代わり立ち代わりでやってきて、いつまでも混んでいる。我々も30分ほどで下山開始。シャクナゲゲートを通して森の中に入り、行きと同じように鎖も頼りにしながら桃岩まで下る。のんびりと沢を渡って、テント場に着いた。

ここも人が多いが、うまくテーブルを見つけて、お疲れさまの宴とする。森の中のテント場は虫が多く、蚊取り線香を持つおじさま方が近くに座ってくれたが、ブヨにやられてしまった。幕営時は虫よけ必携であろう。そして、山頂アタック用に持ってきた古いナップザックの糸が弱っていたようで、ほろほろと分解してしまった。劔岳で分解しなくてよかった。明日はザックの雨蓋をアタック用にしよう。

食事が終わったら各自テントに移動して、明日の準備をして就寝した。

2日目は金峰山だ。6時前に出発。こちら森の中の登山道、大きな大日岩を巻いていくと、間もなく見晴らしのいい尾根に出た。今日も快晴、南アルプスが北から南までバッチリ見える。御嶽山も見えた。砂払の頭を過ぎると均整の取れた美しい夏の富士山が一気に姿を見せ、歓声が上がる。マツやシャクナゲが庭園のように彩る大きな岩が増え、乗り越えていくと間もなくジャンプ台のような五丈岩が見えてきた。



五丈岩の前に着くと、こちら登山者がいっぱいだ。犬を連れている人が何組かいて、2頭の双子のような真っ黒なラブラドルレトリバーが人気を集めていた。そして我々は山頂に至る道、というか岩場を、他の人にぶつからないようスピードと勢いに気を付けながらポンポンと飛んでいく。一時期、膝を痛めてから岩場歩きがスッキリ行かず、すっかり自信を無くしていたのだが、この感じだ。体と頭が思い出した。ポン、ポン、ポンと飛んでいく。そうそう、これこれ。えいっ！と着地点を見定めて飛んでいく。楽しい！一番高い岩だけは腰が引けて笑われたが、気にしない。この感覚を取り戻したことが、今回の山行の一番の収穫だった。劔岳、行けるぞ！と自信を持てた。



楽しい岩登り

満悦至極なまま、休憩場所を探し求めて五丈岩の裏側まで無駄に歩いたが、北側を望む場所にちょうど3人分座れるスペースを見つけて腰を下ろすことができた。先程から山頂には昨日とは違うTシャツを着た高校生ワングループがいて、1列になって私たちの目の前を歩いていく。Tシャツ違うなー、と思ったが、私は無謀にも「浜路北高校ですか！」と声をかけた。列の最後の女子が落ち着いて「いいえ、私たちは早稲田実業です」と丁寧に答えてくれた。そうか！今どきの早実は女子がいるのか（20年以上前に共学化していたのだった）。私は静かに感動した。「では失礼します」と礼儀正しく目の前を通り過ぎ



金峰山のシンボル、五丈岩前には沢山の登山者

ていく彼女に、「失礼しました！」と声をかけずにいらなかった。するとくると振り返り、ニコッと微笑んで去っていく。高校生の完璧で気持ちのいい態度に、無礼なおばさんは恥じ入った。でもなんだか爽快だった。怪我なく楽しくね！

20分ばかり、おやつと風景を愉しむと雲が上がってきた。そろそろ下山だ。行きは気にせず通り過ぎたが、金峰山小屋分岐で改めて地図を見る。ここを行くと北側の小川山の近くに行くんだな、と道の先を目で辿る。小川山はかつていた会社の元同僚が岩登りで足しげく通う場所で、私も1回連れてきてもらった。すいぶん会っていないが、今週末も来ているのかな？などと思い出しながら歩く。美しい日本庭園の植え込みのような風景に別れを告げて、森の中に戻った。

13時過ぎにテント場到着。FJさんは出発前にツエルト撤収、KMさんもサクッと撤収したが、私は結構荷物を広げてしまっていたので時間がかかり、お二人を待たせてしまった。ここが最大の改善ポイント。1時間ほどかかってやっと荷物をまとめ、駐車場へと向かい、下山完了。温泉で汗を流して少し休んで、帰路に就く。帰りの中央道から見た夜の富士山の山肌には、ヘッドランプの列が見えた。

今回の劔岳予行練習で、虫よけ必携、崩壊したナップザックは処分して代替りのものを考える、テント撤収手順及び荷物の重さは要再考、ツエルト設営にはポールが必要（ストックを使うと登山中ツエルトをつぶしておかないといけないから）、と改善点が色々見えた。やってみてよかった。

誇り高さ百名山の瑞牆山と金峰山の神様には、「実は劔の予行練習だったんですよ」などとはとても言えないけれど、この2つの山にはいろいろ学ばせてもらいました。山の神様、ありがとうございました。

さて2週間後は、[劔岳](#)、本番です！

《コースタイム》

7/19: 瑞牆山荘近くの県営無料駐車場(10:30)～富士見平小屋キャンプ場(テント設営、昼食)(11:22-12:45)～桃岩(13:09)～瑞牆山山頂(14:19～14:49)～桃岩(15:27)～富士見平小屋キャンプ場(16:23)

7/20: 富士見平小屋キャンプ場(5:55)～大日小屋(6:42-6:52)～大日岩(7:14)～砂払の頭(8:35)～五丈岩(9:37)～金峰山山頂(9:50)～五丈岩前(10:07-10:30)～金峰山小屋分岐(10:51)～富士見平小屋キャンプ場(テント撤収)(13:11-14:35)～駐車場(15:10)

※写真協力：FJさん

(終)